

南臺灣に於ける高砂族住家の研究

正 員 千々岩助太郎¹⁾

内 容 梗 概

本論文には筆者が数年前より繼續中の高砂族住家研究の中間報告である。高砂族は其數15萬餘に過ぎないが全島の山間僻地に散在居住するを以て其調査研究には相當の日數を要し筆者は漸くパイワン族、ブヌン族及びツォウ族の各蕃地を踏査し得たのみであるが各種族とも其住家には夫々特徴があり、殊にパイワン族の如きは甚だ變化多く大別しても形式に分類する事が出来且つ亦各種族間の關係、交渉等にもつきざる興味が存在するが未だ研究の途上にあるので結論には到達しないが近年中には全島の蕃地を隈なく踏破して研究を完成する豫定である。

第 1 章 高 砂 族

高砂族 高砂族といふ名稱は臺灣の原住民族を指し高山及平地蕃族(生蕃)竝に平埔族(熟蕃)の總稱であつて總數20萬に餘る。その内平埔族は約5萬であつて平地に於て一般住民の間に伍し殆んど高砂族の原形を失ひ、その餘の15萬余が高山及び平地蕃族で峻嶒なる中央山脈一帯及び東部平地に居住してゐるが本研究は後者のみで平埔族には觸れない。

高砂族の種族 由來民族の文化、小にしては一種族の文化、言語、習俗なるものは一定不變のものではなく時と所とに應じて變遷する事は云ふまでもない。一種族の膨張に依つて隣接の異族を融合する事も自然であり、其接觸地帯に何れとも判定し難い灰色地帯が発生するのも亦當然である。従つて高砂族種族の分類は研究者に依つていろいろであるし又建築學上から新たな分類が発生しないとも限らないが筆者は先づ便宜上從來最も普遍的に採用されて來た次の7種族に分類して研究を進める。

タイヤル族 Atayal

サイセツト族 Saisiat

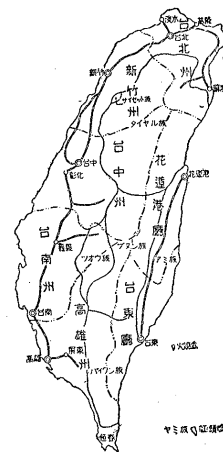
ブヌン族 Bunun

ツォウ族 Tsoou

パイワン族 Paiwan

アミ族 Amis

ヤミ族 Yami



第 1 圖 高砂族種族別分布圖

高砂族蕃社戸口 (昭和10年末現在)

種 族	社 數	戸 數	人 口
タイヤル	181	7,370	35,639
サイセツト	12	257	1,482
ブヌン	85	1,965	17,757
ツォウ	20	346	2,168
パイワン	172	8,373	43,460
アミ	83	5,939	48,237
ヤミ	7	397	1,695
其 他	0	4	64
合 計	560	24,651	150,502

1) 臺北州立臺北工業學校教諭

第 2 章 高砂族の住家

蕃社の形成 現在に於ては高砂族は數十戸集團して一部落即ち蕃社或は分社を形成してゐるものが多いが稀に1戸乃至數戸宛點々としてゐる例もある。即ちタイヤル族、パイワン族、アミ族及ヤミ族は集團部落を形成し、サイセツト族、ツォウ族及びブヌン族は比較的小數宛點在してゐる。

住居の選定及移轉 高砂族が住居を選定する條件は種族或は土地に依つて多少の差異はあるが共通的のものを擧ぐれば

1. 農耕に便利
2. 防禦上有利
3. 衛生上良好
4. 過去に於て不祥事件のなかつた土地

5. トして吉なること

等で移轉は之れと反對と見てよいが、尙

1. 人口増加に依る農耕地の不足
2. 疾病其他不祥事の續出
3. 敵蕃の襲撃
4. 住家の腐朽

等が主なる條件である。其他屋内埋葬を舊慣とせるものは家長が死亡した時、或は數人埋葬するか、屋内に變死者を出した時は移轉してゐる。但し現在に於ては當局の指導に依つて殆んど各蕃社共同墓地を有し屋内埋葬はない。又從來農耕は畑作のみであつたのが氷田の指導盛んに行はれたる結果、當局は農耕衛生等便利且取締等も考慮されて漸次山脚地帯へ集團移住を奨励されてゐる。

建築の一般構成 住家に限らず總ての建築の形式は其土地の自然的影響即ち氣候、溫度、或は建築材料等に支配されて構成さるゝ事が多く、殊に高砂族の如く人智未開の民族に於てはこの自然的原因に影響さるゝ事頗る甚大である。高砂族の生活様式は衣食住とも甚だ簡素であつて多くは自給自足である。従つて建築等も甚だ幼稚で其主要なものは住家であつて其附屬物として穀倉、家畜小舎等がある。然して東部平野に住むアミ族を除いて、多くは山腹の傾斜地を利用して建築する故住家の方位は一定せず一般に低所に向ひ高所を背にして建てゝゐる。建築地盤はブヌ族、ヤミ族及びタイヤル、パイワン兩族の一部は掘り下げて一種の堅穴式生活を營んでゐるがその他は敷地地盤と一致してゐる。平面は一般に矩形でツォウ族の一部に橢圓形に近き不規則のものがあり入口は1ヶ所乃至3ヶ所で平入が多い。屋内は單室のものが多くサイセツト族、パイワン族、アミ族及びヤミ族に復室のものもあり、土間のまゝのもの、石敷き又は板張りのもの或は竹や籐等で床を張れるもの等種族或は地方に依つて異なつてゐる。柱は總て掘立柱で壁及び屋根は石、茅、板、檜皮、竹等其土地に産する材料を以て構築し、屋根の形も簡單なる切妻が多い。

第3章 パイワン族の住家

パイワン族は知本山の南より恒春の南端に至るまで標高1300米以下の山地一帯に集團部落をなして居住する。嚴然たる封建制度で頭目は男女を問はず長子相續であるので女頭目も珍らしくない。配下の蕃丁は頭目に対して蕃租を収める習慣があり、秘藏するトンボ玉及び特有の土器は遠く祖先より傳はるものと云ひ一般に珍重されてゐる。又彫刻、刺繡、機織等に格別優れた技能を持つてゐる。

パイワン族の住家は其地方に依つて次の5形式に分つ事が出来る。

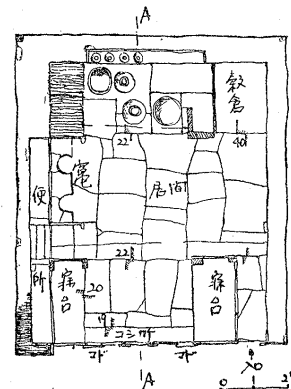
1. パイワン族北部地方の住家

2. スポン社・ナイブン社地方の住家
3. 牡丹社・クスクス社地方の住家
4. チョコクライ社・タバカス社地方の住家
5. 大麻里社地方の住家

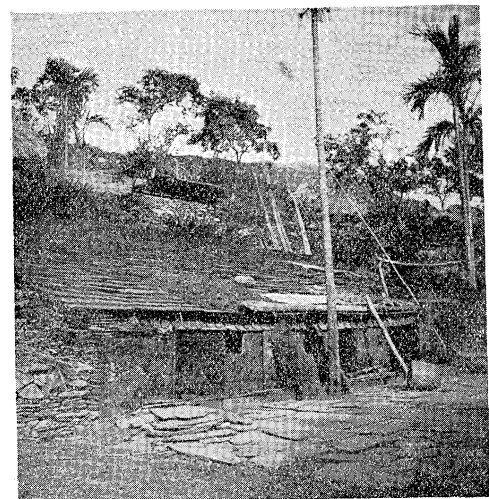
近年蕃社相互間の仇敵關係消滅し抗争は跡を絶ち、且つ交通の便開け文化の接觸愈々密となるに及んで彼我各其長所を採つてこれを模倣し、住家形式に於ても亦甚だ接近し漸次識別は困難となつて行くばかりである。従つて上記5形式は最も顯著な差異に依る分類で尙些細なる點に於ては多くの形式に分つ事が出来る。

パイワン族北部地方の住家 (第2, 3, 4, 5圖)

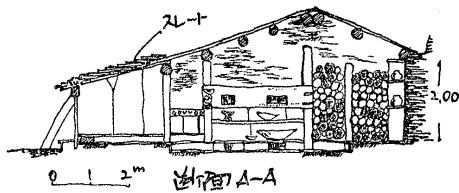
高雄州旗山郡下三社、屏東郡一圓及び潮州郡スボン溪以北の地方に於ける住家形式である。平面は概ね矩形で間口廣く平入である。前庭及び屋内ともスレートを敷き並べたもの多く屋内は單室で前庭より10纏乃至15纏下り、居間は下段及び上段に分れ下段は日常の食事或は雨天に於ける作業場として使用し、上段は下段より10纏乃至15纏上り其兩端に寢臺、窓側に腰掛があり家族の多い時は寢床となる。下段の突當りに竈があり其の裏



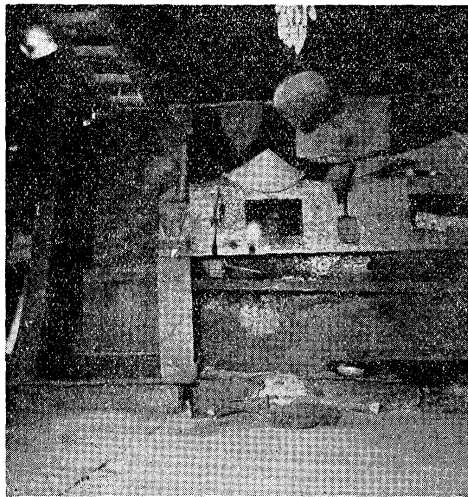
第2圖 パイワン族北部地方の住家平面圖
(高雄州屏東郡トクブン社)



第3圖 同 正 面



第4圖 バイワン族北部地方の住家断面圖
(高雄州屏東郡トクブン社)



第5圖 同 屋 内

側即ち入口と反対側の側面壁に沿ふて便所兼豚小舎がある。居間の中央に親柱が2本あり其中間に棚を設けて祖先傳來の壺或は獸骨を飾り其背面又は兩側が穀倉である。寢臺は床面より20釐位高く巾1米乃至1.5米、スレートで作り稀に木製のものもある。入口の巾は約90釐、高さ約1米で體を曲げねば屋内への出入は困難で、扉は片開き板戸、表面に彫刻した例もある。窓は正面に2ヶ又は3ヶあり屋根の所に小さな天窗を設けたものもある。

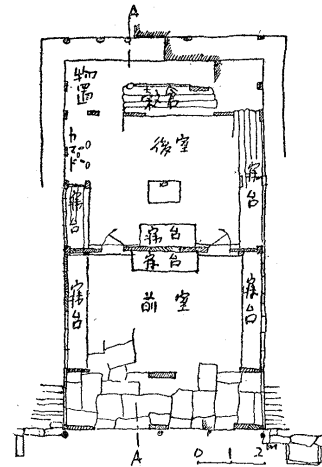
敷地は傾斜地が多く先づ斜面の高い部分を掘り下げて前面に盛り、背面及び兩側面は切取つた垂直の土地に接して石を積み上げて壁とする。前面壁は多くはスレートを立て並べたものが多く稀に側面及び背面壁と同じく石積のものもある。屋根構造は親柱で棟木を支へ又兩側面壁の間に太き木材を架け渡して母屋及び軒桁としこれに裏板を並べてスレートを葺く。親柱及び軒桁には見事な彫刻を施したものがある。

便所(豚小舎) 竈の背後に設けスレートの壁を以て隔離し竈の横に小さな通路がある。巾は1米位長さは家の奥行に準じ底は前方に向つて勾配を付け糞尿は自然に外部に排出せられる。踏板は居間の床面より60釐位高く、便所内に一般に豚を飼養してゐる。穀倉を屋外に設くるものと屋内に設けるものがあつて屋内の穀倉は桶或は角材で頑丈な骨組を造つて之れにスレート或は板を張つてゐる。

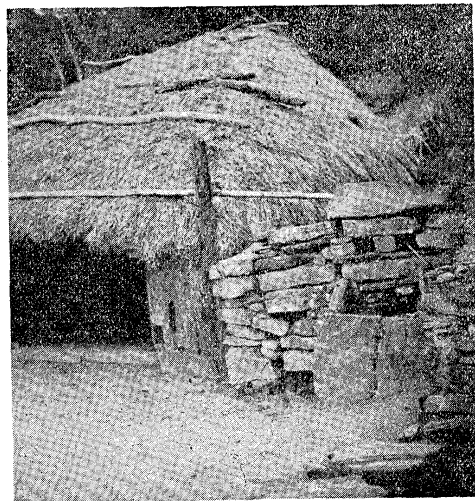
附屬建造物としては穀倉(屋内にない場合)、鶏小屋、司令臺(頭目家に限る)、頭骨架等がある。

スボン社・ナイブン社地方の住家(第6,7,8圖)

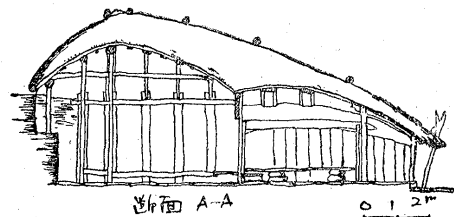
高雄州潮州郡スボン溪以南の地方に於ける住家形式である。平面は概ね矩形で間口は奥行よりも狭く屋内はスレートを敷きつめたもの多く前室及び後室に分れてゐる。前室の床は前庭の地盤より30釐位高く居間として使用し兩側面に巾の廣い腰掛があつて時としては寢臺として使用する。兩側面及び後室との境界(間仕切壁の上部)に厚約6釐、成60釐乃至1米の弧状をした梁を架しこれに又弧状に曲つた角材或は平板の母屋を渡しその上に板天井を張り天井は縦横兩断面とも缺圓形の曲線となし不完全ながら缺球形をなしてゐる。間仕切壁中央の柱は巾約1



第6圖 バイワン族スボン社・ナイブン社地方の住家
平面圖(高雄州潮州郡外マリツバ社)



第7圖 同 正 面



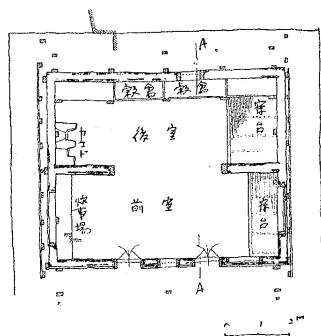
第8圖 同 断 面 圖

米位のものを用ひ彫刻を施したものが多い。後室の床は前室より僅かに高く後部を穀倉として使用し兩側面には寢臺及び籠がある。天井を張らず屋根を支ふる爲兩側壁に沿ふて約1米の間隔に若干の木柱を立てる。この木柱は厚板で何れも上方を内側に曲げて相對立せしめこの柱相互間に弧状をなした母屋を架しこれに幅の狭い板を目透しに竝べその上に細い丸竹を縦横に組んで全部を結束した上茅屋根を葺いてある。寢臺は板製のものが多い。屋根は前後兩室を通じて龜甲型である。壁は前記のものと同じく傾斜地を切り取つて建築する故兩側面及び背面は切取面に接して垂直に石を積み上げて造り前面壁及び間仕切壁は板壁である。入口は前面に2ヶ所あつて巾約1米、高さ1.5米片開き板戸を附し入口の間に窓を設けた例もあるが最近のものと思はれる。又前面に壁がなく厚板の柱を2,3本建て前室が吹抜きになつた例もある。

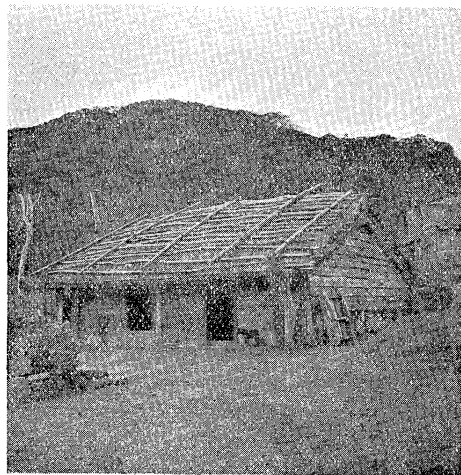
附屬建物としては豚小舎、屋外炊事場等がある。

牡丹社・クスクス社地方の住家 (第9, 10, 11 圖)

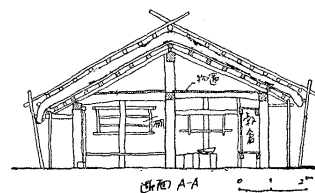
高雄州恒春郡に於ける住家形式で最も多く本島人住家の影響を受けてゐるものである。平面は矩形で屋内を前後兩室に區分した縦列式配置のものと全く本島人式に左右中の3室に區分した横列式配置のものとがあつて、前者は間口より奥行長く後者は奥行よりも間口の廣いのが普通である。縦列式配置に於ける



第9圖 パイワン族牡丹社・クスクス社地方の住家平面圖 (高雄州恒春郡牡丹社)



第10圖 同 正 面

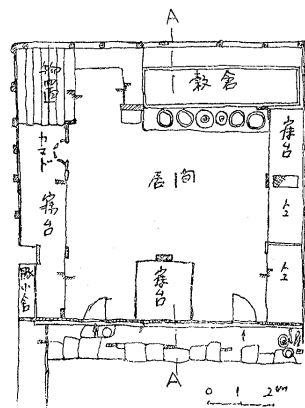


第11圖 同 斷 面 圖

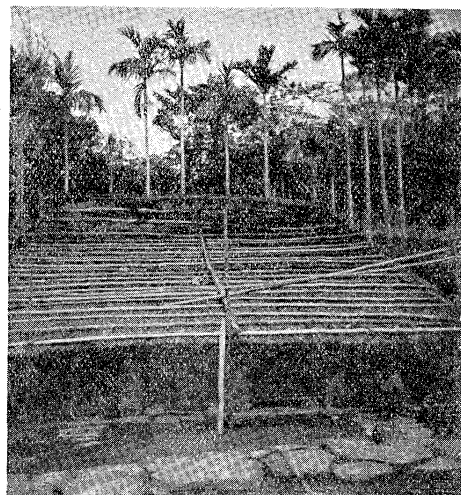
前後兩室の大きさは一定せず又間仕切を極限して殆んど一室と見るべきもの等もある。入口は2ヶ所、その間に小さな窓を設けたものもある。前室の兩側に寢臺と炊事場があり後室の兩側には寢臺と籠とがあり背面壁に沿ふて穀倉及び物置がある。横列式配置に於ては一層本島人住家に類似し殆んど見分け難いものが多い。即ち入口は各室に1ヶあり中室は居間兼客間として使用し左右兩室は寢室及び厨房である。壁は外壁、間仕切壁とも土角造のもの多く屋内も土間のまゝで石敷のもの等ない。寢臺は床から20程乃至30程高く巾は1米乃至1.5米で木又は竹を以て作り穀倉は土間から約50程位上げ床板を張り四周も板圍ひである。

チヨカクライ社・タバカス社地方の住家 (第12, 13, 14 圖)

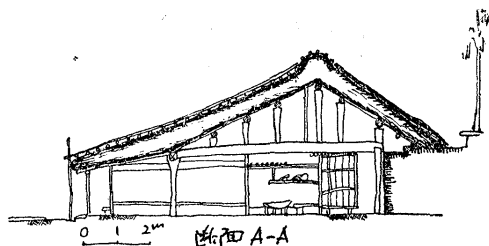
臺東廳臺東郡南部の山岳地方に於ける住家形式である。



第12圖 パイワン族タバカス社・チヨカクライ社地方の住家平面圖 (臺東廳臺東郡チヨカクライ社)



第13圖 同 正 面



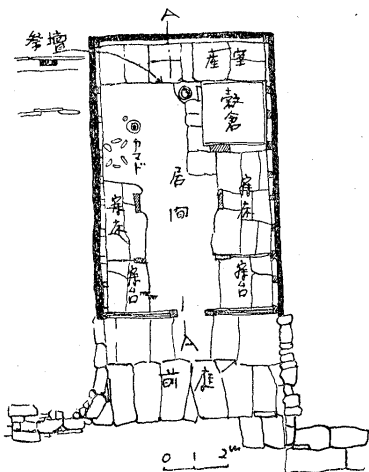
第14圖 同 斷 面 圖

平面は概ね矩形で方形に近く建築地盤は前庭と共に敷地地盤より約1米位掘り下げて堅穴式となつてゐるのが他地方の住家と著しく相違してゐる。即ち通路より2,3段の階段に依つて前庭に下り屋内に入る。住家の両側面及び背面は掘り下げた垂直の土地を直ちに壁としこの壁に接して約1米間に柱を建て奥行の方向に梁を架けこれに束を建て母屋を渡して切妻屋根を支へてゐる。前面壁は厚板を建て竝べ入口は2ヶ所、屋内は單室で兩側面に寢臺及び竈を作り背面壁に沿ふて穀倉及び物置を配置する。入口の巾は約70釐高さ1.4米、扉は片開き板戸、寢臺は床から20釐乃至30釐高く巾は1米乃至1.5米木製、穀倉は四周とも板圍ひである。

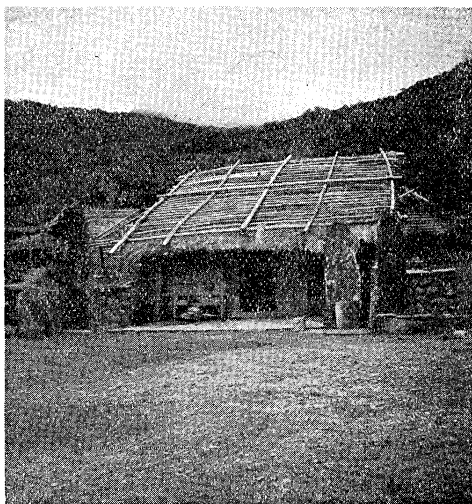
大麻里社地方の住家 (第15, 16, 17 圖)

臺東廳臺東郡下海岸地方に於ける住家形式である。

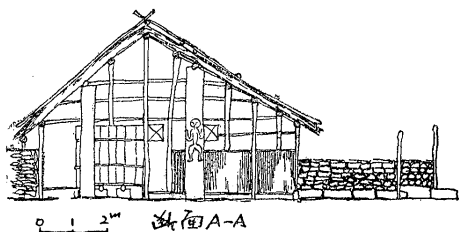
平面は矩形で間口より奥行深く屋内及び前庭にはスレートを敷きつめ、敷地は緩い傾斜地で背面及び兩側面は僅かに土を切り取りこの垂直の土地に接して間隔約1米以内に適當に割合はして柱を建てこの柱の上に母屋を渡し竹を竝べて茅葺切妻屋根を支へてゐる。棟木を支ふる柱を親柱と云ひ長さ約4米乃至5米あり彫刻を施してゐる。軒高も約2米あつて他社のものに比べて廣々としてゐる。側面及び背面壁は割竹或は板、茅等を以て工作し前面壁は厚板である。入口より採光する外窓はなく入口の巾は90釐高さ1.8米位で板戸を附し、居間は單室であるが兩側面に寢臺を作りその他穀倉、分娩所等がある。寢臺はスレート敷きで高さは殆んど居間の土間面と一致し長さは1米乃至



第15圖 バイワン族大麻里社地方の住家
平面圖(臺東廳臺東郡大麻里社)



第16圖 同 正 面



第17圖 同 斷 面 圖

2米、穀倉は地盤より約40釐の高さにスレートの床を張り周壁は板圍ひ、分娩所は寢臺と同様で地盤面より50釐位上げてスレート床を張る。

第4章 ブヌ族の住家

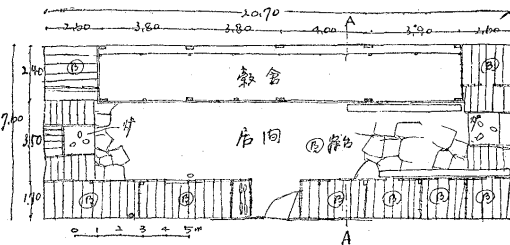
ブヌ族は新高山を中心として埔里以南の中央山脈及び其東側に沿ひ知本主山以北までの深山、標高500米乃至2000米の間に點在して居住し、性質は概して悍猛で猜疑心が深く、大家族制である。元來高山の中腹に點々散在し外界との交渉極めて少ない生活をしてゐる爲頑迷、固陋、本島に於ける最後の未歸順番である高雄州旗山郡タマホ社の如きは漸く昭和8年に歸順式を擧げたのである。

ブヌ族の住家は各地方とも平面は殆んど同形であつてその構造材料が地方に依つて異なるのみである。即ち平面は總て矩形で間口廣く平入である。屋内は前庭より30釐乃至1米近く掘り下げたものがあり桁桁の方向に3分され、前面中央に入口、その左右は寢臺、後面は穀倉で家族の多い時は穀倉の兩端に寢臺をとる事もありこの中間が居間でスレート敷のものもあり兩端に爐が切られてゐる。壁はバイワン族と同じく傾斜地を切り取つて建築する故背面及び側面はこの切取つた垂直面に接して石を積み上げてゐる。前面壁も亦全部石積のものもあり、地方に依つては腰積を石とし其内側に柱を建て割板、檜皮、茅莖竹等を以て壁を工作したものもある。居間と穀倉との境に2本

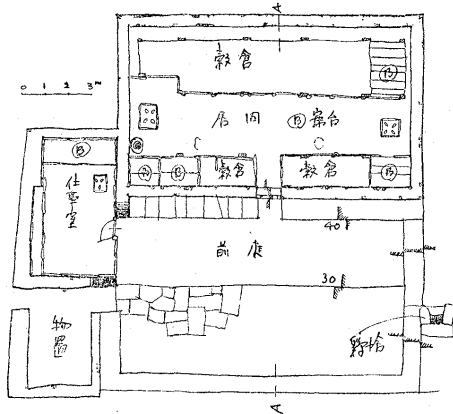
乃至4本の中央柱を建て、棟木を支へ前後兩壁の柱との間に梁を架し母屋を渡してゐる。屋根は切妻でスレート葺、檜皮葺、板葺及び茅葺等があつてスレート葺の時は板又は檜皮を以て裏板とし、茅葺の時は板又は茅莖を以て裏板代用としてゐる。入口は巾約1米、高さ1.2米乃至1.8米、扉を有するものと然らざるものとあつて屋内を掘り下げたものには入口内側に1,2段の踏段を設け入口上に肉類貯藏用の棚がある。スレート葺の屋根にのみ小さな天窗を設けたものもあるが壁面には窓なく、古來の銃丸より進化したと認むべきもの或は近年改善されたものに若干見受けらる。寢臺は板又は茅莖を以て圍ひたるもの多くその入口は巾45乃至60厘の狭いもので床高約30厘、板又は竹を以て床を張り天井高は約1.5米位でその上部は居間から穀倉又はその他の物置として使用してゐる。穀倉は床高約30厘位に板又はスレートで床を張り中央柱相互間に高さ約1.5米位の板の間

仕切を設けてこれに粟を屋根裏まで高く積み上げたものが多い。前庭を敷地地盤より30厘位掘り下げたものがありこれにスレートを敷きつめ周囲には低い石垣を圍らしてゐる。

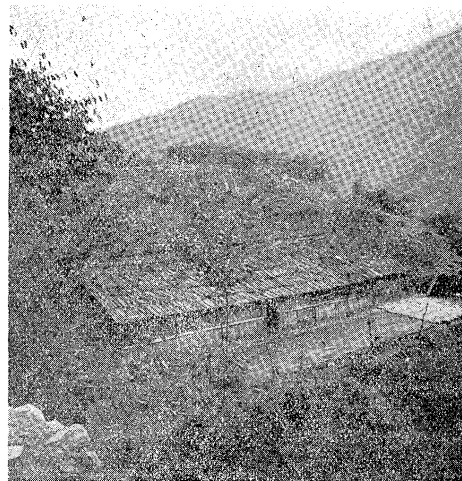
附屬建造物としては豚小舎、鶏小舎、物置棚兼用涼臺等がある。



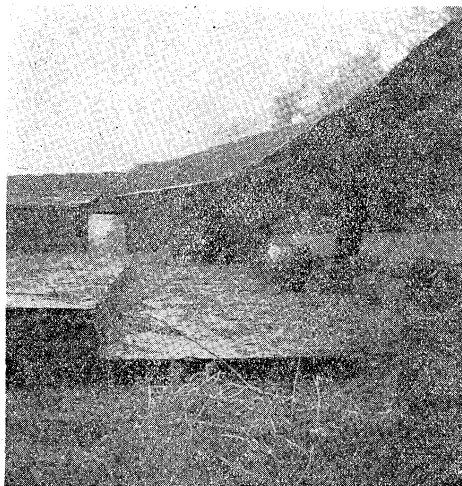
第21圖 プヌン族の住家平面圖
(高雄州旗山郡タマホ社)



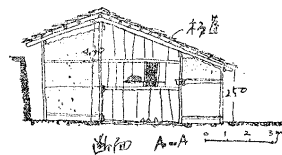
第18圖 プヌン族の住家平面圖
(臺中州新高郡カネトワン社)



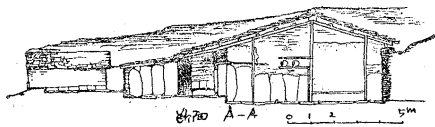
第22圖 同 正面



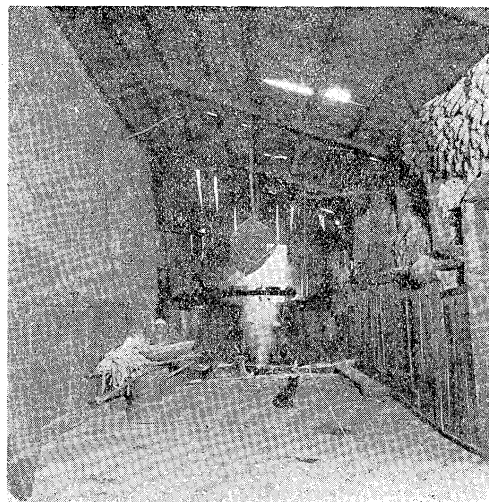
第19圖 同 正面



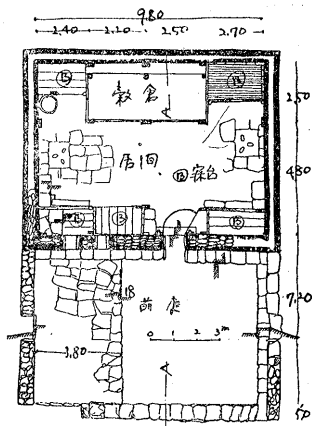
第23圖 同 斷面圖



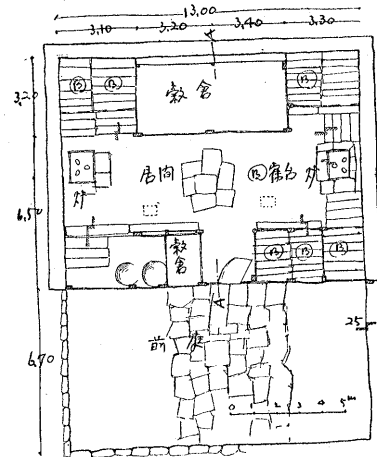
第20圖 同 斷面圖



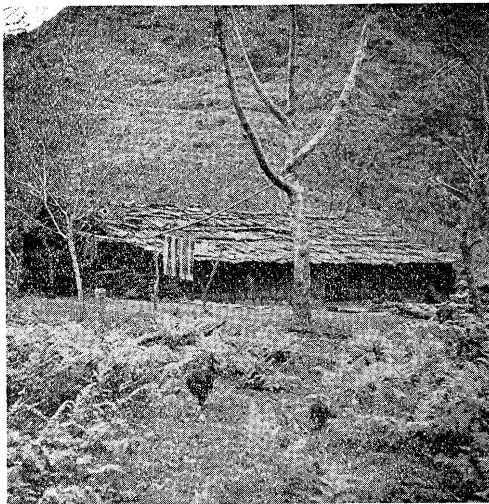
第24圖 同 屋 内



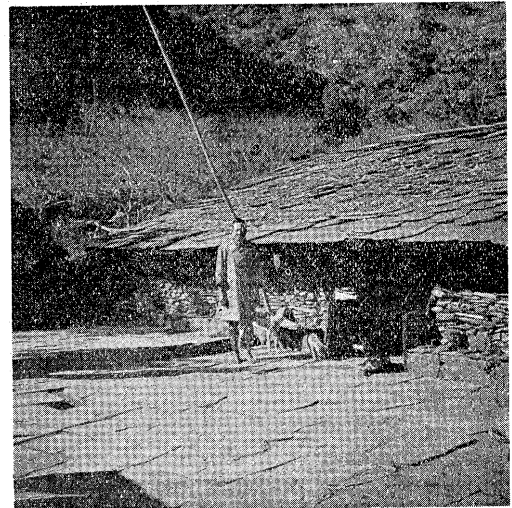
第25圖 プヌン族住家平面圖
(臺東廳關山郡リト社)



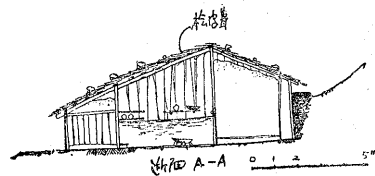
第29圖 プヌン族住家平面圖
(臺東廳關山郡マリプラン社)



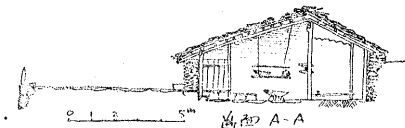
第26圖 同 正 面



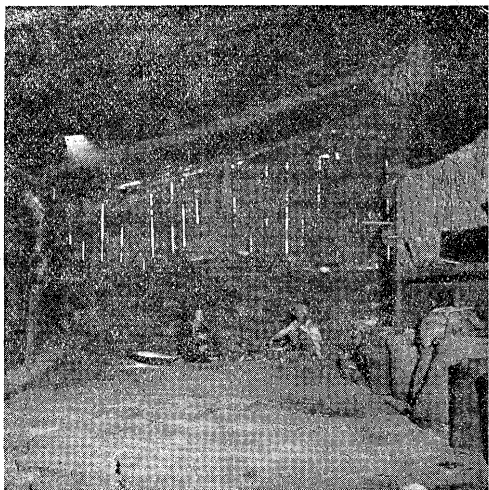
第30圖 同 正 面



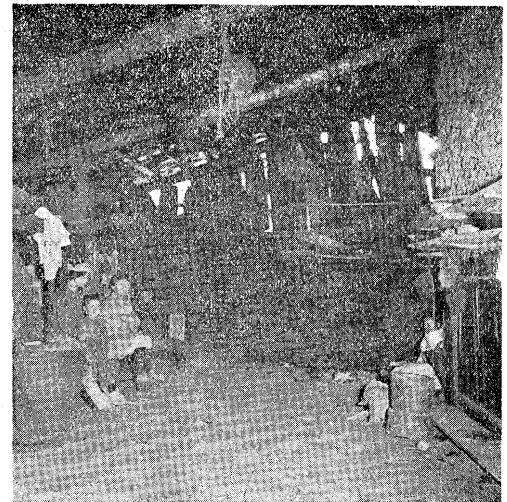
第27圖 同 斷 面 圖



第31圖 同 斷 面 圖



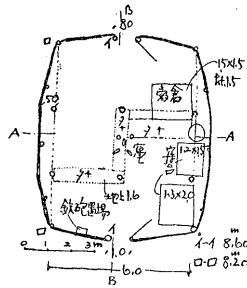
第28圖 同 屋 内



第32圖 同 屋 内

第5章 ツオウ族の家

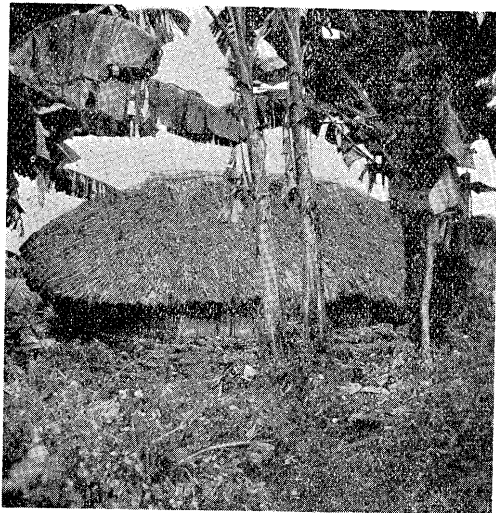
ツオウ族は新高山の西南麓主に阿里山地方の標高 800 米乃至 900 米の土地及び高雄州旗山郡の一部に居住する小種族で性質



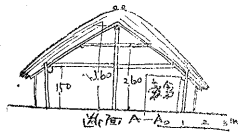
第33圖 ツオウ族住家平面圖 (臺南州嘉義郡イムツ社)

概して温順寧ろ覇氣に乏しく、大小の民族制はブヌン族に似てゐる。

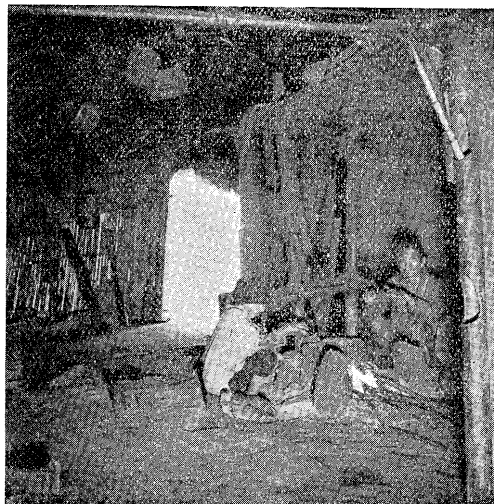
ツオウ族の住家も亦又各地方とも平面形は殆んど同形であつて部族に依つて獸骨を屋内に藏するものと屋外に置くものとの相違があり構造材料は主として茅及び茅莖、竹等である。



第34圖 同 側 面

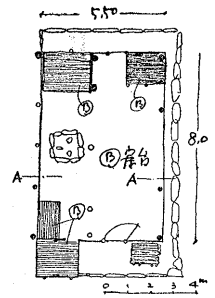


第35圖 同 斷 面 圖

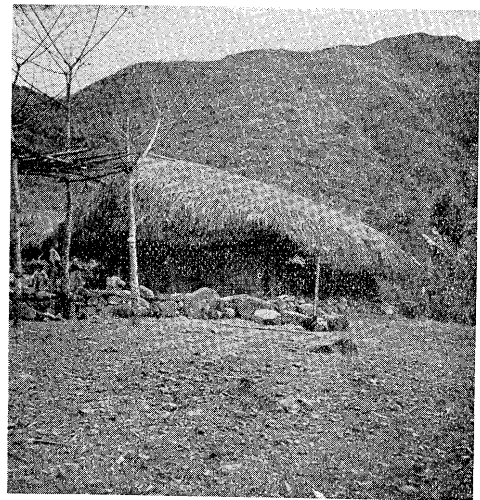


第36圖 同 屋 内

平面は不規則な矩形で楕圓に近いものもあり間口狭く、入口は前後2ヶ所あつて屋内は單室、屋内外の地盤の差は殆んどなくこの居間の四隅に寢臺があり、寢臺の中間兩側壁に沿ふて穀倉がある。又居間の中央に爐があり、その周りに2本或は4本の親柱を立てこれに棟木を架し、四周に側柱を立て彎曲した



第37圖 ツオウ族住家平面圖 (高雄州旗山郡ガニ社)



第38圖 同 正 面



第39圖 同 屋 内

梁を架しこれに小さな丸太或は細竹を縦横に渡して結束して茅葺とし屋根の外形は半截楕圓體状である。比較的平坦地に建築さるゝ故四周壁とも茅莖又は割竹を以て壁を作り入口の巾約1米、高さ1.8米餘、壁の材料と同じく茅莖又は割竹を編んで作った戸がある。入口より採光する外窓はない。穀倉は約1.5米角高さ1.6米位に茅莖で作られた箱状のものである。住家の周圍には低い石垣を圍らし豚、鶏等を飼養してゐるものが多い。

附屬建造物としては畜舎の外集會所及び獸骨架等がある。

(昭和 13. 1. 19)